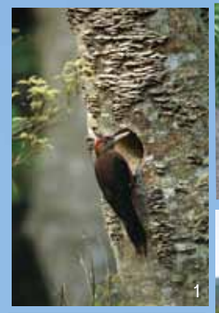
山原（ヤンバル）で民泊（ミンパク）！森と海に暮らすおきなわ旅

ヤンパク

沖縄
やんばる3村
国頭村
×
大宜味村
×
東村

帰るところには、
もうひとつの故郷が
生まれている。



1 やんばるにのみ生息するキツツキ、ノグチゲラ。イダジイなどの木に穴を開け巣を作る 2 リュウキュウハグロトンボ 3 運が良ければヤンバルクイナに出会えることも 4 マングローブ林が広がる東村の慶佐次湾ではカヌー体験も行われている 5 人工物が少なく星空観測に最適 6 芭蕉布の里、大宜味村喜如嘉集落 7 オキナワキノボリトカゲ 8 沖縄本島最大級の水量を誇る比地大滝 9 香りがいいシークヮーサーの花。3月中頃に見られる 10 森を抜ければすぐに美しい海が広がる 11 沖縄でも極めて珍しいイシカワガエル 12 日本に生息する最大の野ネズミ、ケナガネズミ

やんばるの森が育む命
自然と寄り添う人々の営み

緑濃い亜熱帯の森が広がる沖縄本島北部は、その名も「やんばる（山原）」と呼ばれている。なかでも、本島最北端の国頭村、その南にあり太平洋に面した東村、その西に隣り合い東シナ海に面した大宜味村の３村は森が深く、海岸部まで山が迫る。本島最高峰の与那覇岳から背骨のように山々が南北に連なり、ヘゴやシダ、ブロッコリーのようなイタジイがこんもりと生い茂った森から湧き出したひとしずくは清流となって、丘陵地を潤しながら海へと注ぐ。

豊かな森は、地球上でこの森にだけ生息し、絶滅の恐れがあるヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなどの天然記念物や固有種など、貴重な動植物のゆりかごのようだ。多様な生物が綿々と息づいてきた３村は、2013年12月に世界自然遺産の候補地として選定された。

自然と寄り添いながら暮らすやんばるの人々は海岸線を縁取るように、小さな集落を形成してきた。かつては、森から切り出された木材は集落から集落へと引き継がれ、首里城まで運ばれたという。農業や漁業など自然からの恵みとともに生き、今なお山や海に五穀豊穣を祈願する伝統儀礼を執り行い、人々の祈りは未来へと受け継がれていく。

【国頭村　くにがみそん】沖縄最北端に位置し、本島では名護市に次いで２番目に広い村。東は太平洋、西は東シナ海に面し、村土のほとんどが山林原野に覆われた、自然豊かな環境で人々は生活する。森の中は、ヤンバルクイナ・ノグチゲラをはじめとする天然記念物が20種類以上生息しており生物の宝庫。耳を澄ませば鳥や虫の鳴き声が聞こえてくる。人口：4,923人／総面積：194.82㎢

【大宜味村　おおぎみそん】「長寿の里」として知られ、世界中の研究者からも注目を集める大宜味村。琉球古民家が建ち並ぶ静かな集落だが、90歳を超えたハルサー（農家の人）もいて、元気いっぱい。長寿の他にも「芭蕉布の里」「シークヮーサーの里」「ぶながや（妖精）の里」といったキーワードを掲げるなど、小さな世界に魅力が詰まる。人口：3,302人／総面積：63.45㎢

【東村　ひがしそん】日本一の生産量を誇るパインアップルをはじめ、多様な作物を生産している東村は、農産物の宝庫。本島最大面積のマングローブ林が見られる慶佐次川は有名な観光スポット。ここではカヌーを漕いで川を進む、ネイチャー体験も実施。春はつつじが咲き誇り、つつじ祭りでは多くの観光客も訪れる。人口：1,739人／総面積：81.79㎢

※各市町村人口／「沖縄県推計人口 平成26年2月1日現在」より
※空撮場所／石山展望台（大宜味村）より

心のふるさとに出会える やんばるの民泊

青い海、青い空。
もちろんそれは、沖縄の魅力のひとつだけど、
この島にはもっといろいろな色、いろいろな世界が
広がっている。
耳を澄ませば、鳥や虫の鳴き声だったり、
波音、羽音など自然の声が聞こえてくる。
立ち止まり、あたりを見回せば、
森で暮らす生き物の力強さ、庭に咲く草木の美しさに
気づかされる。

夜空を見上げれば、無数の星が目に飛び込み、
宇宙の中に吸い込まれそうな感覚に。

海の青、植物の緑も一色ではなかったんだ。

インターネットで検索するのが当たり前の日常。
その情報能力は優秀だ。
でもこの民泊では
五感で手に入れた無限の情報を
手に入れることができる。

そしてここには、まるで子供のように、
孫のように愛情を注ぐ人たちがいる。

自然の大切さを理解すると同時に
人と人がつながることの大切さを学ぶ子供たち。

また帰ってきたい。
帰るころには、
もうひとつの故郷が生まれている。

悩んで立ち止まったときは民泊で過ごした時間を思い出して

前田徳榮さん・洋子さん

● 国頭村 ● 海の香り

《体験内容》
シークヮーサーの収穫。収穫したシークヮーサーを使ってジュースやゼリーを作る。他に芋掘り、トマト、ゴーヤーなどの収穫も実施。海ではウミガメの産卵見学、浜辺の観察など。夜は星空観察も楽しむ。

大通りを渡ればそこは海。背後には緑の山が迫る自然に恵まれた環境に立つ前田さん夫妻の自宅では、鶏や山羊などが飼育されており、動物との触れあいが楽しめる。民泊では、この優れた立地を生かして海に出かけて浜辺を散策したり、貝殻を拾いネックレスを作ったりと、都会育ちの子供たちには新鮮なイベントばかり。隣家も離れているため、夜は無数の星が散らばる、星空観察が楽しめるそう。「庭に寝転がって星を見ていた子供が、そのまま眠ってしまったこともありました。子供たちも悩みを抱えているのでしょうか、海に向かって大きな声で叫んでいる子もいましたね。時期によってはウミガメの産卵にも出会えますよ」。生徒とは会話を重視しているという二人。「出会った人は、兄弟のようにおもてなしをしなさい、という『いちゃりばちょーでー』という言葉が沖縄にはあります。そういった沖縄方言を学ぶことで少しでも沖縄文化を知ってほしい。将来進路で悩んだ時は、民泊で過ごした時間を思い出してほしいですね」。

1 鶏や山羊も飼育している前田さん。朝起きたら産みたての卵を取りにいくのも子供たちの仕事。 2 愛くるしい山羊。「民泊中に山羊がお産して、それを子供たちが教えてくれたこともありました」。 3 庭に置かれたオーブンでこんがり焼いたサツマイモ。民泊した子供たちに出すことも。 4 過去のレジュメや写真も忘れずに丁寧にファイルする母のような洋子さん。

5 沖縄の家庭ではよく出されるポーポーやヒラヤチー・ムーチーなども生徒と一緒に作るとか。 6 マンゴーの花。6月から8月の収穫時期にはマンゴーをいただくことも。 7 収穫した大根を持つ武雄さん。 8 自宅の壁に貼られていたお礼の手紙。

人とふれあい生きていく その大切さを分かってもらえたら

大城武雄さん・ゆかりさん

● 国頭村 ● 福木屋

《体験内容》
マンゴーや島野菜の植え付け・収穫・草刈りなど、その時期に行う農業体験や牛の餌やりの他、自宅では沖縄の家庭料理を一緒に作ったり、拾った貝殻で貝細工の製作を行っている。

五人の子供を育てた大城さん夫妻は、子供たちとの会話を大切にしている。「やんばるの自然や文化、田舎の地域の結び付きを通して、人が人を思う愛情の深さを伝えられたらと思います」。農作業、料理体験の他、田舎特有の近所交流も魅力のひとつで、地元民との触れあいから学ぶことも多いという。ゆかりさんの携帯電話には、子供たちからのメッセージが残っている。「すごく大人しかった子でしたが、1年後に同じ学校の受け入れをしたときに、『後輩にも私たちのときのように愛情を注いでください』と、メールが届きました。うれしかったですね」。将来の夢を語った子供たちの近況情報も楽しみのひとつと話すゆかりさんは、「新しいものを見たいという好奇心と、慣れた日常から出たくないという、せめぎ合いから来るのか、不機嫌になってしまう子供も中にはいます。その子供が最後涙を流して、『一緒にやりたかった』と話してくれました。胸にため込まないで思いの丈を話してほしい」と優しく笑った。

民泊さんぽ
ちゃらしぬ

服部吉伸さん・美冬さん

● 国頭村 ● きじむなぁ

《体験内容》
『命のゆりかご』とも呼ばれる、サンゴが繁殖する海辺では、魚やカニなどの暮らしを観察。屋上にゴザを敷いて星空を観察したり、海辺の清掃、森の散策など、自然との触れあいを楽しむプログラムを用意。

命の大切さを心に刻み 自分の周りを愛おしく　感じて

「海遊び 森遊び きじむなぁ」を営み、自然の魅力を伝えている服部さん夫妻は、豊かなやんばるの自然に触れさせることで、命の大切さを伝えていきたいと、森の散策や海辺の観察・清掃などを行っている。「都会では人の数が多いが、やんばるでは野生の生き物の数の方が多い。人は自然のごく一部の存在ということを理解してもらい、命を大切にしてもらいたい」と吉伸さん。実際に雄大な自然に接した子供たちからは、「真っ暗で怖いけど、夜行生物がいると分かったので怖くなくなった」「静かなことってにぎやか。何もないっていっぱいあるんだね」といった声があがり、来る前では気づかなかったことが見えてくるようになったという。数日間この村で過ごした生徒が地元に戻り、「同じ街の風景が全然違って見える」といった声も。「自分の足下と比べてほしい。あなたの足下にもすばらしいものは、たくさんあるはずですから。何年後でもいいので、ここでの体験をふっと思い出してほしいですね」。

9 森を散策して植物や生き物を観察。 10 海に入らなくても海面から見える美しいサンゴ。 11 夕暮れどきにビーチ散策。貝殻を集めたりと楽しいひとときを。 12 拾ってきた貝殻やガラスで製作したネイチャークラフト。

1973年に開催された若夏国体時にも民泊を受け入れた経験を持つ平良さん夫妻は、孫10名、ひ孫2名に恵まれ、穏やかな日々を過ごす。民泊ではありのままの日常を体験してほしいと、特別なことは行わず、農作業や料理の準備、三線を弾くなど、普段の暮らしを一緒に過ごす。沖縄の歴史や戦争体験を伝えていくのも我々の仕事と、慰霊碑の前に行き、体験した沖縄戦争の話を語り継ぐ。「たくさんの人が犠牲になった戦争の怖さをわかってほしい」と話す森雄さんは、「話を聞いて子供たちが少しずつ成長していくのがうれしい」と笑顔を浮かべる。子供時代に遊んだ草笛を生徒たちの前で吹いたり、教訓歌でもある「てぃんさぐの花」を三線で弾き、沖縄文化を伝えていく。「泣いて帰っていく子供たちもいます。私たちは帰る時も『さようなら』ではなく『いってらっしゃい』、と声をかけます。いつかまた、『ただいま』といって、私たちのところに戻ってきてほしいですね」。

帰るときは「いってらっしゃい」と挨拶 そして、いつか「ただいま」と戻ってきて下さい

情のこもった熱い唄声で民謡を唄う森雄さん。三線体験では楽譜の工工四（くんくんしー）の説明も。

平良森雄さん・悦子さん

● 大宜味村 ● シンナバマ

《体験内容》
農業体験、三線体験、砂浜散策の他、慰霊碑に出向き沖縄の戦争体験を語る平和学習も実施。自宅では悦子さんと食事の準備を一緒に行い、沖縄に伝わる長寿食を一緒にいただく。

1 戦争体験者でもある森雄さんは慰霊碑前で「平和学習」を行っている。2 幼少時代に遊んだ口笛を子供たちの前で披露。

3 ビーチではビーチクリーニングを実施。4 生徒を出迎えるシーサー。5 目の前に広がる海。夏は一段と青さが増す。6 集落を散策しながら沖縄の文化を紹介。写真は字の行事海人祭に使うハーリー船。7 子供とつくる貝殻クラフト。フォトフレームも制作。

苦手な野菜も民泊で克服 大宜味の魅力を五感で体験

宮城健隆さん・美保子さん

● 大宜味村 ● ゲストハウス メリ

《体験内容》
シークヮーサーを収穫してその場でジュースにしたり、時期によってはパインアップル・スイートコーンの植え付けなど農作業を実施。ビーチクリーニングや集落を散策しながら沖縄文化を紹介したり、サーターアンダギーを作るなど料理体験も。

海岸沿いに自宅を構える宮城さん夫妻。波音が届く心地よい庭で食事をしたり、夜空を眺めたりと、楽しい時間を過ごすそう。「沖縄の魅力を五感で感じてほしいですね」と話す宮城さんは、同時に、子供たち同士がお互いを助け合い、励ましていきながら成長してほしいと願う。「苦手な食材が出されても、仲間がいる環境なら克服できる。克服した子供からは『自信が付いた』という言葉をもらいました。こういうところが民泊の良さですよね」。目の前に広がる美しい海を見た子供たちが、自発的にビーチの掃除を勝手出ることもあるそうで、そんな時は一緒になってビーチクリーニングを行っている。拾った貝殻を使って、フォトフレームやアクセサリーの製作も人気プログラム。時期が合えば、シークヮーサー果樹園に包丁とまな板を持って、そこで即席ジュースを作ることもあるという。「こういう都会では体験できない感動を得ることができるのも民泊の魅力ですね」。

人を助ける心が芽生え 一回り大きな人間に成長

比嘉勝正さん・艶子さん

●東　村●民泊艶

《体験内容》
パインやサンゴパインの苗の植え付け、収穫の他、沖縄の食材を使った料理体験、星空観察、三線や琉球舞踊の体験、貝殻細工の製作などを実施。地域の人とグラウンドゴルフやゲートボールを一緒に楽しむこともある。

主にパインアップルの栽培を行っている比嘉さんの家では、「農作物を育てる大変さを知ってもらいたい」と、海が見える美しいロケーションの畑で収穫や植え付けなどの農作業の体験を行っている。採った作物を自宅に戻って調理することもあり、食事は奥様の艶子さんと一緒に準備する。「初めて包丁を持つ子供もいますが、楽しんで手伝ってくれますよ。自分たちが採った作物をいただくことで、ごはんのありがたさを知ってもらいたい」。自宅では勝正さんの三線教室や艶子さんの琉球舞踊指導・琉装の着付けを行い、沖縄文化も伝えているが、同時に食事のマナーや挨拶など躾にも重点を置いている。「民泊は教育の一環と考えている。はじめはおとなしかった子が、食事の進まない友達を助けたり、『おじさん、私がやります』と、自分から農作業を手伝ってくれる姿を見ると、一回り大きな人間に成長したように感じます。この民泊では、自然のすばらしさ、様々な体験を通して、人と人の絆を大切にして、刺激を受けてほしい」。

1 艶子さんは、入村式の歓迎セレモニーで踊りを披露。2 自宅では琉装の着付体験や琉球舞踊を指導する。3 比嘉さんのパイン畑。4 勝正さんの味わい深い歌声を聴きながら三線体験。

緑深い森に佇む琉球古民家が與古田さんの自宅。耳を澄ませば、鳥や蛙、虫の鳴き声が耳に届く心地よい環境。ボーイスカウト・ガールズスカウトの経験を持つ夫妻は、「自然と触れあい、やさしい気持ち、いたわりの心を持ってもらいたい」と話す。草花を使ってのクラフト作りや、ロープワークの指導など、ユニークなプログラムも用意。庭に作った自作のアスレチックは、都会育ちの子供にとっては珍しいようで誰もが目を輝かせる。自然と密接した暮らしは、子供たちの成長にも役立つ。「将来のヒントを得て帰ってくれたらうれしい」と話す與古田さんは、進路の悩みを相談されることも多いとか。「留学したいと話す子供たちもいますが、そんなときには、彼らの背中を押すようにしています。外に出れば故郷の良さを知り、家族の愛に気づくことができますから」。濃密な時間を過ごした生徒とは民泊後も交流が続いている。「いま、こうしているよ、とか、近況報告を聞くことが一番うれしいですね」。

食事は與古田さん一家と、囲炉裏を囲んでいただく

将来を決めるヒントを見つけて持ち帰ってほしい

5 赤瓦屋根の琉球古民家が與古田さんの自宅。6 屋根の上に座る漆喰シーサー。7 庭に設置したターザンロープで楽しむ子供たち。少し硬かった表情も遊んだあとは笑顔いっぱい。8 こちらも與古田さん手作りのアスレチック。ロープを巧みに結んで頑丈に作られている。少年に戻った気分で心を解放。

與古田力男さん・悦子さん

●東　村●Farmers House Yokoda

《体験内容》
ウコンの収穫などその日の農作業を一緒に行ったり、生活に役立つようにと、ロープを使ったゲームで、ロープワークの大切さを伝えたり、草花や木の実などを使ったクラフト作りを実施。

民泊さんぽ
ぐらしぃ

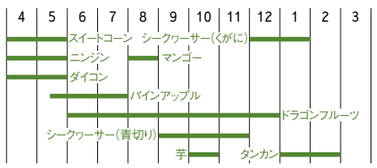
ハルサーの仕事を体験 「食」への意識も向上

沖縄では農業をする人のことを「ハルサー」と呼ぶ。南国の厳しい太陽の下、時には強烈な台風に見舞われる厳しい環境の中で、ハルサーたちは毎日農作業を行い、食卓に新鮮な野菜を届けている。そんな彼らの仕事に寄り添い、一緒に行うことは食育の学習にもつながっていく。子供たちは作物の植え付け、収穫、草刈りなど、普段行っている農作業を体験する。パインアップルやシークヮーサー・マンゴー・島野菜などその種類は多彩。収穫した果実にその場でかぶりついたり、果実を搾ってジュースにして飲んだりと、都会生活では味わえない出来事も彼らにとっては刺激となる。また、収穫した野菜は夕食に出されることもある。汗を流し自分の手で収穫した野菜は、ひと味もふた味もおいしさが増し、食のありがたさを再確認できるはずだ。「作物を作る現場を自分たちの目で見ることで、ご飯のありがたさを分かってほしい」とは農家の声。

各家庭での農業体験とは別に、赤土の流出を防ぐためのベチバーを植栽する、グリーンベルト植栽活動も行っている（詳細 P19）。

Column

主な農作物の収穫時期



民泊 de 家業体験 1

パインアップルの実って土の中に埋まっていると思ってました

甘くておいしいです！

大変だけどだんだん楽しくなってきました

俺もがんばるから君たちもがんばれよ！

パインアップル畑などで植え付けや収穫を行っている金城良武さんが必ず子供たちにさせてみるのが雑草取り。「この作業は辛い作業ですが、我慢してやることで、農作業の大変さを知ることができます」。天候が悪くても大丈夫。雨の日であれば屋内でもできる農作業を用意している。

金城良武さん

海人の仕事をサポート 海の恵みを育成

豊かな自然に恵まれたやんばる地域では、漁業も貴重な産業資源のひとつ。マグロや伊勢海老・ソデイカなど豊富な海産物が食卓に届けられている。海ぶどうの養殖も盛んで、沖縄の美しい海で育てられた海ぶどうは、全国各地に出荷されている。海ぶどうは別名グリーンキャビアとも呼ばれ、高品質な食材として人気がある。プチプチした食感が特徴で、沖縄では昔から刺身に添えられたり、ご飯の上にのせたりと、親しまれてきた。

東村の山城定継さんは、この海ぶどうの収穫・植え付け体験を行っている。専用の網棚にひとつひとつ丁寧に植え付け、海水と同じ温度に設定した水槽に網棚を入れて育成していく。子供たちはこれらの作業を山城さんと一緒になって行う。始めは怖々行っていた子供たちも要領を掴み、次第に作業もスムーズに。沖縄では漁師のことを海人（うみんちゅ）と呼ぶ。彼らの仕事を目の当たりにして、食材が生産されていく現場を体験することで、食への感謝の気持ちも芽生えていく。

民泊 de 家業体験 2

初めて触ってドキドキしました

今日植えた海ぶどうは50日後に出荷できます

よく見ると海ぶどうってかわいい

新鮮でおいしいプチプチした食感が楽しい

工程を見て学ぶことで食の大切さを知ってください

海ぶどうの養殖を行っている山城定継さんは植え付け・収穫を体験することで、「物を作る大変さを知って、生産することの苦労を理解してほしい」と話す。「植え付けの工程を知ったあとに食べると、また違った感情が芽生えると思います。食の大切さをこの体験から感じてほしい」と続けた。

山城定継さん

Column

海のおしごと

農業と比べて割合は少ないが、やんばるでも漁業は貴重な産業。国頭・東村ではソデイカやタカセ貝などの加工品も製造。大宜味ではハマフエフキダイ・スギ等の養殖も行われている。

民泊さんが、「らっしゃい！」

長寿の秘訣は食にあり 調理を手伝い 食材も学習

やんばる地域は、高齢でも元気な人が多い。その秘訣はボカボカ太陽をいっぱいに浴びた、健康野菜を使った食事にあるとも言われている。医食同源の考えが沖縄の食には根付き、長寿食として世界的に注目を集めるほどだ。そんな沖縄の家庭料理を中心とした食事の準備も子供たちと一緒に行う。沖縄そば、ゴーヤーチャンプルー、テビチの煮付け、ニンジンシリシリーと、沖縄では当たり前に食べられている食事も、子供たちにとっては目新しく興味津々。不慣れな包丁もお母さんが横で優しくサポートしてくれるので安心。畑から収穫した島らっきょうやナーベラー（へちま）など島野菜をふんだんに使った料理は、身体にも優しく、ここでは食生活の見直しも学ぶ。

お手伝いをするだけではなく、料理の美しい盛りつけ方や食事のマナーも指導。食事後は片付けまで一緒に行う。家ではあまり手伝わない子供たちも、民泊では積極的に作業をこなす。自宅に戻って実践する子もいるそうで、レシピを確認するため電話をかけてくる子もいるとか。

Column

人気の沖縄料理はこちら

タコライス
タコスの具をご飯にのせて食べる、アメリカ人向けに考案されたメニュー

ソーミンチャンプルー
固めに茹でたソーメンをポークやツナと一緒に炒めた料理

ニンジンシリシリー
千切りにしたにんじんを溶いた卵と炒めた料理。子供に人気でお弁当に入れられていることが多い

ゴーヤーチャンプルー
ゴーヤー（苦瓜）を卵やポークなどで炒めたもの。ツナを入れる家庭もある

民泊 de 家業体験 3

食材の魅力を解説しながら子供たちと料理の準備を進めていくという具志堅弘子さん。「旬の野菜で料理を食べさせてあげたい。民泊のお母さんはみんな一生懸命食事を作っています。おいしいって、言ってくれることがうれしい」。料理の盛りつけも美しく食卓を囲む子供たちの笑顔が印象的。この日はパパイヤとニンジンのチャンプルーなど。

具志堅弘子さん

民泊 de 家業体験 4

玉城流七扇会に所属している金城より子さんは、国頭村出身。民泊の体験プログラムが入れば生まれ育った奥に出向き、琉装体験と簡単な琉球舞踊の指導を行っている。「琉装を身に着けた子供たちは、うれしそうに飛んだり跳ねたりしています。沖縄に根付く芸能文化を少しでもわかってもらえたらうれしいですね」

金城より子さん

三線や琉舞に触れて 沖縄の芸能文化を学ぶ

古くは琉球王朝時代、中国から迎えた冊封使をもてなしたことから発展した琉球芸能。琉装を身に纏い華やかに演舞する琉球舞踊や、島の心を唄に置き換え、心情を歌い継ぐ三線は、沖縄に残された大切な文化のひとつ。この文化に触れることで、子供たちはより深く、沖縄の魅力を知ることができる。

体験では、時代を映した伝統衣装を身に着ける琉装体験や、簡単な民謡を弾く三線体験、沖縄の伝統の念仏踊りを一緒に踊るエイサー体験などを実施。琉装体験では実際に舞踊で使用する紅型柄の衣装を着用することができ、女の子には人気の高いプログラム。国頭村では玉城流七扇会の金城より子先生が、着付けから舞踊の指導まで行っている。「こんな衣装を着る機会は初めて。一生の思い出」と、体験した生徒の目が輝く。実際に芸能文化を体験した上で、首里城などの観光施設に出向けば、視点も深まり、沖縄の奥深さに気づくことができるだろう。

Column

▼▼▼ やんばるの主な伝統行事 ▼▼▼

安田のシヌグ（国頭）
五穀豊穣・無病息災を祈願するための伝統的な祭祀。山に入った男達が植物を身に纏い、五穀豊穣・無病息災を祈願する大シヌグ（うふしぬぐ）と女性が祈願するシヌグ小（しぬぐんくわー）は１年おきに開催。

塩屋湾のウンガミ（大宜味）
塩屋湾で行われる五穀豊穣・無病息災を祈願する祭祀。海から神を迎え入れるウンケーやハーリー競漕が行われる。女性たちが海に浸かり唄をうたって応援するなど、昔のままの姿を残す。

民泊さんぽ
「ぶらっしゃい！」

木工製作で学ぶ やんばるの森の豊かさ

沖縄独特の樹木が茂るやんばるの森。この豊かな森の木々を活用して創作活動を行っている木工職人の工房に民泊する。家業体験では、樹木や生き物の話を聞きながら、世界に一つだけのオリジナルの木のアクセサリーを作る。沖縄の思い出をお土産として持ち帰ることができるのが木工体験の醍醐味だ。

製作には子供たちでも扱いやすいように、粘りのあるやわらかい材質のヒカンザクラを使用。木材は台風による倒木や田畑で邪魔になった樹木を譲り受けて、有効活用している。

煙で燻した幹や枝を小さくカットした木片に鉛筆で下書きをし、指導を受けながら電動糸ノコで木片を切り抜いた後、サンドペーパーで磨いて面取りし、焼きペンで模様を描く。

木工職人のお父さんは、ヒカンザクラ以外にもリュウキュウマツやシークヮーサーなどを素材に木のおもちゃなども製作し、工房内には作品が並ぶ。普段、木と触れ合う機会の少ない子供たちも自らの木工体験を通じて、やんばるの森や木工職人の手仕事に興味を持ち始めるという。

民泊de家業体験 5

沖縄の海の思い出を作品に詰め込んじゃった

お母さんとのゆんたく（おしゃべり）も楽しいな

木工職人のお父さんが作った木のアクセサリーはやっぱり素敵

絵馬には民泊のお礼のメッセージを

沖縄固有の樹木や生き物の話に子供たちの目もキラキラしています

やんばるの森の理解を深めるために、スケジュールに余裕のある場合は、国頭村のやんばる野生生物保護センター（うふぎー自然館）に足を延ばして案内しているという大宜味村 一心工房の真謝剛さん。「都会育ちの子供たちからは思いもよらない質問を受けることもあります。体験を通じて、自然の宝庫であるやんばるを身近に感じて欲しいですね」

真謝 剛さん

Column

ヒカンザクラ（緋寒桜）

日本で一番早く咲く桜で、カンヒザクラとも言われる。鐘状の淡桃色の花が1月下旬に沖縄本島北部で開花し、徐々に南下していく。本島北部と南部では約1カ月も開花の差があり、長い間、沖縄の春の便りを楽しませてくれる。

リュウキュウマツ

琉球列島の固有種で、沖縄県の県木。公園樹や街路樹などのほか、家具材としても使用される。

自然体験　環境保全活動　伝統文化体験

民泊前後に開催できます

ヤンパク

オリジナル体験プログラム

同じ日本にあっても
本土とは異なる自然や歴史・文化をもつ沖縄のやんばる。
多種多様な生物が綿々と息づいてきたやんばる3村は、
2013年12月に世界自然遺産の候補地として選定された。
ヤンパクではそのようなフィールドを活かし
「自然体験」「環境保全活動」「伝統文化体験」をテーマに
オリジナル体験を多数用意しています。

ヤンパク オリジナル体験
民泊の前後に実施できるやんばるの特徴を活かしたオリジナル体験。テーマ別に様々なプログラムをご用意しています

入村前	ヤンパクオリジナル体験　カヌー等の自然体験、環境保全につながる地域活動、沖縄の伝統を知る文化体験を各班に分かれて体験します
1日目	入村式　やんばる3村から集まった民家のおじい、おばぁにご対面！緊張していた子供たちもしだいに心が打ち解けてきます。入村式のあとは各班に分かれ、期待に胸を膨らませて各民家へ向かいます
2日目	民泊 de 家業体験　パインアップル、マンゴー、シークヮーサー、タンカンなどの熱帯果実の他、ゴーヤーや島らっきょうなどの季節の野菜の栽培をお手伝いします
3日目	離村式　おじぃ、おばぁ、ありがとう！ぎゅっと握手を交わし、家族のように過ごした民泊での生活に別れを告げます
離村後	ヤンパクオリジナル体験

民家の家業体験
民家でふだんの沖縄生活を体験。家庭料理、畑仕事、畜産、海のお仕事などをお手伝いします。家業の内容は民家によって異なります

民泊及びヤンパクオリジナル体験は、ヤンパク事務局より申し込むことができます。

自然体験

生物の棲みかである大自然に身を委ねて
初めてその大切さに気付く

カヌー体験

やんばるの深い森からサンゴ礁の海へと注ぐ川や海岸の「水上の旅」を、初心者でも安心して挑戦できるカヌーツーリングで楽しむ。海水魚や淡水魚、サンゴ礁やマングローブなどを観察しながら、ゆっくりとしたカヌーのスピードで海や川を感じる。水面から見る光景は、普段の視界とは異なり、新たな視点で自然環境と接することができる。

[実施場所] 国頭村内の河口・海岸、大宜味村大保ダム、東村慶佐次川・海岸 **[所要時間]** 2時間 **[料金]** 4,000円（保険料込） **[最少人数]** 10名 **[最大人数]**（国頭）30名、（大宜味）40名、（東）80名

シュノーケリング体験

美しいサンゴ礁が生息する沖縄の海の素晴らしさを体験するなら、器材なども不要で手軽なシュノーケリングが一番。やんばるの海で泳ぎ、海洋生物を観察することで、自然は一度壊れると取り戻すまでに時間が掛かるかけがえのないものであることを感じ、自然を大切にする習慣を身につける。

[実施場所] 各村内の海岸 **[所要時間]** 3時間 **[料金]** 5,000 ～ 6,000円（保険料込） **[最少人数]** 10名 **[最大人数]**（国頭）20名、（大宜味）要相談、（東）40名

森林散策

やんばるの面積の85%を占める照葉樹林帯には数多くの固有種や天然記念物が生息し、世界的に見ても貴重な地域。季節の変化が本土ほどは明確ではないといわれる沖縄といえども、新緑まばゆい春、亜熱帯ジャングルの湿気漂う夏、収穫の秋、葉を落とさない冬など、本土とは違う季節の移り変わりを森林散策で体験する。この地でしか見られない生物の多様性を観察することで、自然を大切にする心を養う。

[実施場所] 国頭村森林公園、大宜味村イギミハキンゾウ、東村内の森林・新川川 **[所要時間]** 2時間 **[料金]** 4,000円（保険料込） **[最少人数]** 10名 **[最大人数]**（国頭）30名、（大宜味）40名、（東）20名

環境保全活動

かけがえのない自然をいかにして守るのか
その手段を知ることで次への一歩を踏み出す

グリーンベルト植栽体験

沖縄特有の土壌である赤土は海に流出すると、サンゴや海洋生物の生育に悪影響を与えてしまう。赤土の流出を防止するために、植物を植え付ける取り組みに参加する。山と海は共存しており、山を守ることは海を守ることにつながることを学ぶとともに、自然のサイクルを知り、そこに生息する動植物を守ることがひいては自分たちの生活環境を守り育むことを体感する。

[実施場所] 各村内の畑・広場 **[所要時間]** 2時間 **[料金]** 1,500円（保険料込） **[最少人数]** 10名 **[最大人数]**（国頭）40名、（大宜味）80名、（東）120名

ビーチクリーン体験

やんばるの海岸は世界的にも絶滅が危ぶまれているアカウミガメやアオウミガメが産卵のために上陸する大切な場所である。にもかかわらず、浜辺にはポイ捨てされたゴミや他所からの漂流物が散乱している。ゴミ類を拾い集めて汚れた浜辺の清掃を行い、海洋環境について考える。自らの手できれいにすることで、ゴミの正しい捨て方やゴミ拾いなど、地元に帰ってからも環境保全に努める意識を高める。

[実施場所] 各村内の海岸 **[所要時間]** 2時間 **[料金]** 1,500円（保険料込） **[最少人数]** 10名 **[最大人数]**（国頭）80名、（大宜味）100名、（東）120名

伝統文化体験

伝統芸能や文化を受け継ぐ人々と接して
地域の心を守る大切さを知る

エイサー体験

エイサーは、元は仏教の念仏踊りに由来し、沖縄独自に発展したもの。旧盆の夜、祖先を崇拝するために青年たちが集落を練り踊る。三線や太鼓のリズムに合わせて舞い踊る躍動感あふれる振りが特徴的。地域の風習と結びついた伝統芸能だが、昨今では旧盆行事の他にも、さまざまなシーンで踊られる。リズミカルな所作は子供たちにも人気。地域の青年会の親切丁寧な指導を通じて、故郷の芸能文化を大切にする気持ちも養う。

[実施場所] 各村内の公共施設 **[所要時間]** 2時間 **[料金]** 4,000円（保険料込）
[最少人数] 10名 **[最大人数]**（国頭）40名、（大宜味）40名、（東）要相談

琉舞・琉装体験

沖縄の伝統舞踊には、琉球王国時代に中国や薩摩からの使者を歓待するために創作された古典舞踊と庶民の暮らしの中から生まれた雑踊りがある。琉球舞踊を体験することで、本土とは違う、舞踊が生まれた王朝時代の歴史的背景や文化などにも思いを馳せる。舞踊曲に合わせて、きらびやかな衣装や庶民の農作業時の衣装なども身にまとい、舞踊の心を実感する。

[実施場所] 各村内の公共施設 **[所要時間]** 2時間 **[料金]** 4,000円（保険料込）
[最少人数] 10名 **[最大人数]**（国頭）15名、（大宜味）要相談、（東）10名

我が家に来てくれて良かったと思ってもらえるように、一期一会を大切にしています。亡くなった自分のおじいちゃんとだぶって「じいじ、大好きー」と言ってくれた子や、ノートいっぱいに書き記された宿帳は我が家の「家宝」です。この宿帳は、今では3冊になりました。
国頭村◎糸数勤・美恵子さん／やんばるキラリ

アレルギーの子がいて、親御さんがとても心配していたので、電話で話したり、レシピをFAXしたりしました。帰った後、その親御さんから電話で感謝の言葉をいただき、嬉しかったです。
東村◎津嘉山隆・順子さん

農業・料理体験の他にも隣のおじぃー（92才）の戦争体験談を聞かせています。仕事のきつさ楽しさも民泊で学んでほしいです。
東村◎石川文子さん／石川小

最初は緊張して暗かった子供が、2日目から明るくなったのが印象的です。野菜嫌いな子供も、ほとんどの子供が食べてみると「おいしかった」と喜びます。
大宜味村◎渡嘉敷清勇さん／ツワブキ荘

現代社会は圧倒的な情報量が飛び交い、実体験の少ない状況になっている。都会の中だけにいると気づかないこと、知らないことをなるべく体験してもらいたい。一方的に情報を受け取るのではなく、自分で考える大人になってほしい。
国頭村◎中野雅蔵・郁子さん／ヤンバルビオトピア

ヤンパクラブレター YANPAKU Love Letter

民泊では心温まるエピソードが満載。
ここでは、受け入れ先のお父さん、お母さんの思いや
印象に残ったエピソードを紹介します。

「ホテルに泊まるより古我知家に泊まりたい」と言ってくれてうれしい。去年5月に受け入れた生徒の誕生日が私と同じで、楽しくお祝いしました。
大宜味村◎古我知聡・和子さん／コガチヤー

農業体験では、高校生男子は大人並みに仕事をするので、とても助かります。女の子は最初は嫌がりますが、汗をかいた後は満足感に満ちています。
大宜味村◎伊芸和夫・恵美子さん／伊芸農園

ヤンバルクイナが轢死している現状を知って、心を痛めていた生徒、ダムを通して水の大切さに気づいた生徒の姿が印象に残っています。
大宜味村◎金城正治・静江さん／金城農園かいくん

田舎での暮らしを通して、生きる知恵を身に付けてほしい。団体生活が苦手な子供もいると思いますが、クラブ活動の合宿所のように、絆を深めてもらいたい。民泊ではできるだけ、子供たちと話し合い、遊ぶことを心掛けている。私はそれが一番大切なことだと考えている。
東村◎高江洲義政さん／体験民泊　高江洲

民泊で三線を習った生徒さんが「三線がほしい。どこで購入できますか」と興味を持ってくれたことが印象に残っています。事前に沖縄について調べてくる子供たちをみると、意欲の高さを感じます。
国頭村◎伊藤さゆり・具志堅吉秀さん／あーまん

それぞれの国には異なった文化・伝統があります。自分たちのふるさとの一番良いところを学び、学生らしい自分の言葉で表現してアピールしてください。何といっても自分たちのふるさとが一番です。
国頭村◎田場和雄・孝子さん／田場家

受け入れ初日から自分の孫のように接しています。帰る日に「もう一泊していきたい」と泣かれることもあり、そんなときはつらいですね。「おじいちゃん、おばあちゃんの折り紙・料理体験がとても楽しかった」と言ってくれるときは、私たちも感謝でいっぱいです。
東村◎玉村弥弘・悦子さん／民泊体験タマムラ

事故発生時には以下のような緊急連絡体制にて対応いたします。

事故発生

重症・重体の場合 ／ **受入民家・事故者の状態確認** ／ 軽傷の場合

119番 通報

県立北部病院
☎0980-52-2719
㊟名護市大中2-12-3

北部地区医師会病院
☎0980-54-1111
㊟名護市宇茂佐1712-3

連　絡

ヤンパク事務局
㊟東村字平良471-24

合同会社結くにがみ事務局
☎0980-41-2537

NPO法人 おおぎみ まるごとツーリズム協会事務局
☎0980-44-1960

NPO法人 東村観光推進協議会事務局
☎0980-51-2655

受入民家で処置
症状により事務局が医療機関へ搬送

連　絡

旅行会社

連　絡

学　校

3村医療機関

国頭村
国頭診療所 ☎0980-41-5380
【休診日】日曜・祝日・水曜と土曜の午後

国頭村立東部へき地診療所 ☎0980-41-7511
【休診日】土曜・日曜・祝日

ひかり医院 ☎0980-41-2221
【休診日】日曜・祝日・木曜と土曜の午後

大宜味村
大宜味村立診療所 ☎0980-50-5450
【休診日】水曜・日曜・祝日・土曜の午後

東村
東村立診療所 ☎0980-51-2200
【休診日】土曜・日曜・祝日・水曜の午後

《ご協力のお願い》各種体験には、ケガ・病気につながる事故が発生する危険が潜んでいます。主催者は、安全確保と万が一の際の迅速な事故対応に最大限努めますが、参加者の皆様（生徒様）も安全管理に一定の責任を負っている旨をご理解いただき、安全な体験催行にご協力いただきますようご指導よろしくお願いします。

ヤンパク事務局では、国頭村・大宜味村・東村の3村共通の体験プログラムや大型民泊の割り振りを行う総合窓口となります。

ヤンパク事務局
㊟東村字平良471-24
http://okinawa.yanpaku.jp

※「ヤンパク」とは、やんばる3村（国頭村・大宜味村・東村）の農山漁村の活性を目的とした、3村連携による民泊及び民泊前後の日に実施される体験プログラム、また3村連携で提供するオリジナル商品や観光サービスを指します。

- 合同会社　結くにがみ
- NPO法人 おおぎみ まるごとツーリズム協会
- NPO法人 東村観光推進協議会

Message 代表メッセージ

教えることは学ぶこと 子供たちとともに成長していきたい

やんばるには、パインアップル、シークヮーサー、イノブタ、おくみどりなど、誇れる特産物があります。今までは事務局が3村の輪番制だったため、その魅力を最大限に有効活用することができませんでしたが、民泊の受け入れ窓口をひとつにまとめることで、3村共同で民泊事業を行えるようになりました。農家、漁業組合、JA、森林組合、商工会など行政も一体となり、3村の自立を目指して、民泊事業に取り組んでいきたいと思います。

今までは各村から発信していましたが、3村が連携することで一体化され、人のつながりも広がっていくと考えています。1村だけでは200名の受け入れは不可能でしたが、互いに連携することで可能となり、受け入れ体制も充実しました。また、安全面にもよりいっそう気を配り、アレルギー体質の子供たちも安心して食事ができるように勉強会を開くなど、受け入れ先の意識も高まっています。このやんばるは近いうちに国立公園に指定され、後々には世界自然遺産の認定も目指しています。自然豊かなこの村で、たくさんのことを学んでいただきたいですね。

（左から）NPO法人 おおぎみまるごとツーリズム協会 理事長 宮城健隆さん、NPO法人 東村観光推進協議会 理事長 港川實登さん、合同会社 結くにがみ 代表 服部吉伸さん

やんばるの民泊に関するお問い合せはコチラまで

ヤンパク事務局

〒沖縄県国頭郡東村字平良471-24

http://okinawa.yanpaku.jp

2014.06 発行

□発行　ヤンパク事務局　□製作実行委員　NPO法人 東村観光推進協議会　NPO法人 おおぎみまるごとツーリズム協会　合同会社 結くにがみ